

# 土砂災害から

# 命を守る



今夏、九州地方や四国地方では台風の影響による大雨・長雨の影響で、京都や広島市では局地的な豪雨により甚大な被害が発生しました。特に70人を超える犠牲者が出た広島市の土砂災害は記憶に新しく、多くの教訓と課題を改めて示しました。最近の雨の傾向として、局地的にししかも短時間で今まで経験したことのないような強い雨が降ります。ゲリラ豪雨に起因する土砂災害は予測が困難な上、日本全国で発生しています。すさまじい破壊力を持つ土砂が、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪う土砂災害。土砂災害から命を守るために気を付けることとは――。



## 1. 土砂災害の特徴と前兆現象を知る

土砂災害が発生するときには、何らかの「前兆現象」が起きることがあります。以下のような前兆現象に気付いたら役場や周囲の人に連絡するとともに、いち早く安全な場所に避難してください。

土砂災害の種類	がけ崩れ	土石流	地すべり
イメージ図	 ▲資料提供 NPO法人土砂災害防止広報センター	 ▲資料提供 NPO法人土砂災害防止広報センター	 ▲資料提供 NPO法人土砂災害防止広報センター
特徴	斜面の地表に近い部分が雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象です。崩れ落ちるまでの時間がごく短いため、人家の付近では逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多い。	山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流れる現象です。時速 20 <sup>km</sup> から 40 <sup>km</sup> という速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。	斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によって、ゆっくりと斜面下方に移動する現象です。土塊の移動量が大きいため甚大な被害が発生します。
主な前兆現象	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶がけから急に水が湧き出る</li> <li>▶がけから小石がバラバラ落ちてくる</li> <li>▶がけの上の木が揺れたり傾いたりする</li> <li>▶地鳴りがする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶山鳴りがする</li> <li>▶川の水が濁り、水と一緒に倒れた木が流れてくる</li> <li>▶雨が降り続けているのに川の水が減る</li> <li>▶山全体がうなっているような音がしたり、地震のように震えたり、異常なおいがする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶地面がひび割れ、陥没</li> <li>▶がけや斜面から水が噴き出す</li> <li>▶井戸や沢の水が濁る</li> <li>▶亀裂や段差が発生</li> </ul>





## 2. 土砂災害に備える

### ①住んでいる場所が

「土砂災害危険箇所」かどうか確認する

土砂災害発生のおそれがある地区は「土砂災害危険箇所」に指定されています。町内の危険箇所は配布してあるハザードマップまたは町ホームページでご確認いただけます。

▶土砂災害関連①・・・平成25年4月に地区ごとに危険箇所を提示し、関係世帯に配布。集会所等に掲示されています。

▶大井川洪水関連②・・・平成25年9月に町内を4分割し、関係する流域地区に配布しました。

【危険箇所・浸水箇所に関する問い合わせ先】

▷建設課・事業室 ☎(56) 2227



川根本町土砂災害ハザードマップ 検索 川根本町洪水ハザードマップ 検索

### ②雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意する

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに市町村長が避難勧告などを発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。テレビやラジオで発表されるほか、気象庁や次のホームページからも確認できます。

▶静岡県土木総合防災情報

[sipos.pref.shizuoka.jp](http://sipos.pref.shizuoka.jp)

▶静岡県総合基盤地理情報システム

[www.gis.pref.shizuoka.jp](http://www.gis.pref.shizuoka.jp)

### ③土砂災害警戒情報が発表されたら

早めに避難する

居住の地域に土砂災害警戒情報が発表されたり危険だと感じた場合は、早めに近くの避難所など、安全な場所に避難しましょう。また、町からの防災行政無線(同報無線)などによる呼び掛けに注意してください。

次の避難に関する注意点について、日頃から家族で話し合っておきましょう。

▷事前に家族全員で避難場所を確認し、連絡先を決めておく

▷避難する場合は、ご近所で声を掛け合い一人で避難をしない

▷水流に対し真横(直角)に避難する

▷夜間等で外への避難が困難な場合は、次善策としてがけから離れた部屋や2階等へ避難する



▲資料提供 NPO法人土砂災害防止広報センター



▲資料提供 NPO法人土砂災害防止広報センター

【避難場所・防災に関する問い合わせ先】

▷総務課・地域支援室 ☎(56) 2220



## 3. 「恐れるべきは空振りではなく手遅れ」

土砂災害警戒情報などが発表された場合、深夜であろうとも防災行政無線(同報無線)などで住民の皆さまへお知らせします。

また、役場から避難勧告および避難指示が発令された場合、身を守るため、避難所等へ避難をお願いします。

広島での教訓は「恐れるべきは空振りではなく手遅れ」だということ。そして、東日本大震災で学んだことは、「想定外の災害が起こりうる」ということです。

夜間や早朝に避難を要すると想定される場合やお年寄り、子どもなど避難に時間がかかると考えられる場合は移動時間を考慮して、早めに避難準備情報等を発令することもあります。

ゲリラ豪雨など予測困難なケースに対処するため、「ここは大丈夫」という過信は禁物です。

命を守るため、日頃からの備えと早め早めの判断、町からの注意情報へご理解をお願いします。

